

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [渋谷区立富谷小学校] 担当教諭名 [田村 圭佑] (5年 74名)

相手国・地域 [ペルー]

海外学校名 [Colegio La Unión] 担当教諭名 [Cesar Carrascal / Raúl Nakasone]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	「世界の国発見」「SDGs2 食料について考えよう」	25

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	平和
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	新型コロナウイルスや、世界中の飢餓の問題など、様々な困難を協力して乗り越えていこうということ。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
児童が相手意識をもって行動できるようになったこと。 国際理解が進み、相手を知ること、自分たちのことを表現することの大切さを学んだこと。	相手校との事前の打ち合わせや学習内容のすり合わせが十分ではなかったため、学習があまり深まらなかったこと。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
ペルーという国に対する理解が深まったこと。 自分たちの生活がすべてではないこと。 「コロナ禍」という同一の状況でも、国や地域によって対応が異なったり、感染状況なども様々だが、その中から共通する平和への願いを感じ取ることができたこと。	児童と同じように、それぞれの国のバックグラウンドをよく理解し、想像し、自分たちにできることを考えていくこと。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	児童の簡単な自己紹介とともに、日本の文化について紹介した。相手国からも同様な内容。	ペルーの小学生の写真やメッセージを見て、とても喜んでいました。	総合
共有 テーマ学習	9月	新型コロナウイルス、飢餓について自国の状況や、取り組みについて紹介し合った。	国によって状況が様々で、ペルーでは日本より大変な状況が続いていることに心を痛めているようだった。	総合
融合 メッセージ作成	11月	壁画のテーマを考えるにあたり、これまでの学習を通して感じたことをまとめた。	平和な世界を実現していくうえで、国境を超えて手を取り合っていくことが必要だと考えていた。	総合
創造 壁画制作	12月	平和の実現というテーマを具現化するために、デザインを考えた。	どうすれば協働している様子を表現することができるかを真剣に考えていた。	総合
評価 振り返り 自己評価	3月	活動全体を振り返り、国際交流について考えを深めた。	環境や習慣などが大きく違う国の人々とも、相手のことを理解しようとしていたり、お互いに受け入れ合ったりすることが必要だと考えていた。	総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけた力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	ペルーについての調べ学習では、次々と新しい発見があった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	2	自分たちの現状や社会状況を批判的に見る場面もあった。
主体的に考え行動する力	3	児童がペルーの学校にメッセージを送りたいと言ったり、壁画の制作についてはほとんど児童が主体的に行っていたから。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	2	あまり対話、協働ができなかったから。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	児童の様子から、自分たちの考えや思いを伝えるためにはどうしたらよいかと熱心に考えている様子が見られた。